

令和6年度

認定こども園追浜幼稚園評価シート（自己評価）

1、園の教育目標

学校教育法第 22 条に規定される目標達成に向け、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に定められた教育・保育内容を遵守した教育・保育に努める。

- 明るく元気で思いやりのある子ども
- 友だちの中でもものおじしないで行動できる子ども
- 創造ゆたかな子ども

2、具体的な目標や計画

- ・個々の子どもの発達の状況を理解・把握し、適切な保育を行うようにする。
- ・教職員間の意思の疎通を図り、連携を深め、よりよい保育が行えるようにする。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
教職員間で子どもの共通理解・発達の確認がなされているか	A	幼児理解研修を学期ごとに行ったり、教師全員で共有したりし、把握、確認ができており、全体での連携は取れている。
学年に合った指導計画・週案・日誌が作成され、活用されているか	A	実態を把握し、指導計画の見直し、修正を行っている。週案の具体化や日誌記入により、事前準備や、気づきにつながり活用できている。記入方法の工夫も見られる。
日常保育のための環境構成を行っているか	A	子供たちに寄り添いながら考えている。活動内容によって変えることもしている。子どもたちの世界を重要視して教師は環境設定に重きを置いている。
教職員間の連携を深め、子どもの成長や安全確保に繋げる	B	必要事項は、職員会議、幼児理解研修等で共有出来ているが、教育利用担当教員と保育利用の担当教員との連絡・連携を強化したい。
自己のクラス経営を見直し、新たな課題に取り組んでいく。同時に教員の研修会参加促進、園内研修を行い、保育の質の向上に努める。	B	まずは、自己のクラスの実態を客観的にしっかり把握していく。より質の高い保育を目指して、日々の自己研鑽を怠らず、向上心を持ち、研修等にも積極的に参加していく心構えが必要。学んだことは職員間で共有し、クラス経営、日々の保育に生かしていくようにする。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	個々の子供たちの実態把握や、支援の必要性、配慮等については、把握、確認、連携は取れているが、それ以外のところで、行き違いや、連絡が行き届かないことがあったので、更に細かな配慮を怠らず、職員一人ひとりが一層気を引き締めて取り組んでいく必要がある。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員間の連携	個々の子どもの実態をよく理解し、子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。職員間でしっかり共通理解をし、クラスにおける成果と課題を報告する。
クラス運営	自己のクラス経営を見直し、新たな課題に取り組んでいく。同時に自己研鑽に励み、保育に質の向上に務める。
教師の姿勢	幼稚園教諭として、子どもたちにとって教員が大きな環境であるということ意識してかかわる。 研修等にも進んで参加し、自己研鑽に励む。